

受益者の皆さまへ

コモンズ投信株式会社

代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗

【特別レポート】～当社運用ファンドの基準価額の下落とファンドの対応につきまして～

○8 月 5 日の当社運用ファンドの基準価額騰落率(前日比)

	基準価額	前日比	騰落率
コモンズ 30 ファンド	41,355	▲5,584	▲11.90%
ザ・2020 ビジョン	21,114	▲3,390	▲13.83%
コモンズ 30+しずぎんファンド	18,693	▲2,555	▲12.02%

<ご参考>

	8 月 5 日終値	前日比	騰落率
TOPIX(東証株価指数)配当込	3788.12	▲528.1	▲12.23%
TOPIX(東証株価指数)	2227.15	▲310.5	▲12.23%
日経平均株価(円)	31458.42	▲4451.3	▲12.40%
東証グロース市場 250 指数	485.02	▲91.3	▲15.84%

1. 2024 年 8 月 5 日の市場概況とトレーダー瀧上幸男からのマーケットコメント

本日の東京株式市場は、先週末からの世界的な株式市場の動揺が続き、日経平均株価は先週末終値比 4,451 円安(−12.40%)の 31,458 円と急落しました。

先週末に発表された 7 月米雇用統計が市場予想を下回って悪化したことで労働市場の軟化からさらに米国の景気後退への警戒感が高まりました。その結果、米長期債金利が急低下し米国株が大幅下落、さらには日米金利差縮小から外国為替市場で 1 ドル 141 円台まで円高が進み、運用リスクを回避する売りが加速しました。

主力株の多くが、朝の取引開始直後に値がつかない売り気配で始まり、さらには日経平均先物で一時サーキットブレーカー(※)が発動するなど、市場は終日混乱したまま下値を切り下げる展開が続き、本日の取引のほぼ安値水準で取引を終えました。

(※)株式市場や先物取引において価格が一定以上の変動を起こした場合に、強制的に取引を停止させるなどの措置を行う制度のこと。

本日の東京株式市場において、日経平均株価の 1 日の下落幅は 4,451 円となり、率にして 12.40%の下落は、1987 年 10 月に起きた米国株急落が世界に飛び火したブラックマンデーを超える記録的なものとなりました。

日経平均株価の直近の高値は 7 月 11 日つけた 42,224 円ですが、そこから本日の終値までの下落幅は 10,766 円、率にして▲25.50%の下落となります。

なお、この水準を、企業の利益に対して株価がどれだけ買われているかを示す株価収益率(PER)と、企業の資産に対して株価がどれだけ買われているかを示す株価純資産倍率(PBR)で見ておきます。

まず PER は 7 月 11 日の日経平均株価の高値時の水準 17.8 倍から本日の終値換算(概算)で 13.1 倍まで、PBR は 1.58 倍から 1.16 倍まで低下しています。これは、2023 年 1 月ごろの水準となりますが、その時点から今まで、企業の価値を示す利益や資産は大きく伸びてきました。それがたった 1 カ月弱で急激に低下することはありません。つ

まり、利益や資産はそのままに、株価が大きく下がっていることを意味します。

日経平均株価は今後もさらに下落して PER も PBR も切り下がっていく可能性はありますが、本日の水準が過去の水準と比べてどの水準にあるかを確認していただくことで、株価が割高なのか割安なのかを判断する一つの材料にいただければと思っています。

2.コモンズ投信代表取締役社長兼最高運用責任者 伊井 哲朗からのメッセージ

本日は、久しぶりにパニック相場となりました。

まずは、こうした局面では、賢明な投資家の言葉を借りたいと思います。

著名投資家のバフェット氏は、かつて下落相場におけるメッセージを下記のように記しています。

「市場にとどまること、そして安く買うことだ。」

「このような恐ろしい時期には、二つのことを絶対に忘れてはならない。一つは、広まった不安は投資家にとっての相棒だ。なぜなら、安く買えるから。二つ目は、個人的な恐怖が自身の敵だ。それは根拠のないものだろう。財務のしっかりとした優良企業を長期的に待っていれば、ほぼ間違いなくうまくいくはずだ。」

このメッセージは、周囲に広まったパニックに恐れて株を売り始めてはいけな。そして、富を生み出す投資の秘訣は、長期的なものであることを意味しています。慌てているのは短期的な投資家や投機家です。長期的な資産形成をされる皆さんは、バフェット氏のような視点を持ちましょう。

本日の下落は、先週末の米国の雇用統計で失業率などが悪化し、米国経済がソフト・ランディング(軟着陸)でなく、ハード・ランディング(急激な悪化)することを織り込みにいった現象です。

つまり、これまでは、米国経済は緩やかに安定成長に移行するだろうとの見立てだったものが、景気が急激に悪化するのではないかとの見立てに変化し、株式を売却する動きにつながったということです。

コモンズ投信は、このパニック的で乱暴な下落は、既に行き過ぎていると考えています。

先週後半から本日も丁寧な押し目買いを続けています。

まさにバフェット氏の境地です。ここまで下落率が大きいと回復するには3カ月ほどかかると思いますが、ここは一緒に頑張りましょう。

引き続き、よろしくお願い申し上げます。

以 上

ファンドの費用について

購入時手数料	＜コモンズ投信の場合＞ありません。 ＜委託会社が指定した販売会社の場合＞販売会社が、別途定める購入申込手数料を申し受ける場合があります。なお、販売会社における購入申込手数料率は 3.3%（消費税込）が上限となっております。
換金時手数料	ありません。
運用管理費（信託報酬）	＜コモンズ 30 ファンドの場合＞ ファンドの純資産総額に年 1.078%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。 ＜ザ・2020 ビジョン、コモンズ 30+しずぎんファンドの場合＞ ファンドの純資産総額に年 1.265%（消費税込）を上限とした率を乗じて得た額とします。なお、基準価額は、信託報酬控除後のものです。信託報酬は、純資産総額の一定の増加により逓減する仕組みになっています。
信託財産留保額	ありません。
その他の費用・手数料	当ファンドに組み入れる有価証券等を売買する際の売買委託手数料およびこれにかかる消費税等相当額などの実費が投資信託財産より控除されます。また、目論見書・運用報告書等作成費用、監査費用、信託事務に要する諸費用等として純資産総額の 0.11%（消費税込）を上限として投資信託財産より控除されます。上記の手数料（費用）等の合計額については、保有期間に応じて異なりますので、上限額等を事前に示すことができません。

ファンドのリスクについて

ファンドは、国内外の株式など値動きのある証券等に投資するため、その基準価額は変動します。したがって、お客さま（受益者）の投資元本は保証されているものではなく、これを割り込むことがあります。委託会社の運用により生じるこうした基準価額の変動による損益は、すべてお客さま（受益者）に帰属します。投資信託は預貯金と異なります。

※リスク要因は、上記に限定されるものではありません。詳しくは投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

ご留意事項

- ◆本資料は、コモンズ投信が投資家の皆さまに情報提供を行なう目的で作成したものです。
- ◆このレポートは、信頼性が高いと判断された情報等に基づいて作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。記載された意見・見通し等は作成日時点のものであり、将来の株価等の動きやファンドの将来の運用成果を保証するものではありません。また、将来予告なしに変更される場合もあります。
- ◆投資信託の取得を希望される方は、必ず目論見書の内容をご確認のうえ、ご自身の判断でお申し込みください。

金融商品取引業者
 関東財務局長（金商）第 2061 号
 加入協会 一般社団法人投資信託協会
コモンズ投信株式会社
 〒107-0062
 東京都港区南青山 2-5-17
 ポーラ青山ビル 16 階